

車道除雪延長及び除雪車の増減（昨年度との比較）

地区	平成28年度			昨年度との比較		
	除雪延長 (km)	除雪車台数 (台)	1台当たり除雪延長 (km)	除雪延長 (km)	除雪車台数 (台)	1台当たり除雪延長 (km)
上越市全体	1,755.81	337	5.21	2.88	3	△0.04
合併前上越市	775.15	150	5.17	3.54	1	△0.01
安塚区	71.87	12	5.99	△0.24	1	△0.57
浦川原区	73.10	12	6.09	0.00	0	0.00
大島区	33.28	18	1.85	0.00	0	0.00
牧区	72.01	16	4.50	0.08	1	△0.30
柿崎区	126.85	16	7.93	0.75	0	0.05
大潟区	81.09	17	4.77	0.03	0	0.00
頸城区	106.08	19	5.58	0.01	0	0.00
吉川区	85.73	13	6.59	0.05	0	0.00
中郷区	43.53	10	4.35	△0.67	0	△0.07
板倉区	96.44	19	5.08	△0.43	0	△0.02
清里区	50.38	8	6.30	0.00	0	0.00
三和区	100.41	17	5.91	△0.24	0	△0.01
名立区	39.89	10	3.99	0.00	0	0.00

今年度の除雪方針はこれまでの基本方針を踏襲 上越市が市議会建設企業常任委員会で今年度の計画を発表

上越市は2日、平成28年度の除雪計画について発表しました。

今年度の除雪方針については、「昨年度までの基本的な方針を踏襲することとし、引き続き、救急指定病院や消防署の周辺など、市民生活や経済活動に特に重要な路線を「特1種路線」に区分して優先的に除雪を行うこととしています。

計画によると、今年度の車道の除雪延長は、

1,755.81kmで、昨年度よりも2.9kmのびました。車道の除雪延長が一番長いのは合併前上越市の地区で771.15km、一番短い地区は大島区の33.28kmとなっています。歩道除雪は145kmで、こちらも前年よりも3.8kmほどのびました。狭隘道路除雪については、小型ロータリ除雪車が入れる条件の整った路線0.7kmをのび、23.3kmにするということです。

「頸北斎場は即廃止ではなく、継続使用」へ事実上修正

市長の市民とのキャッチボールトークが始まりました。頸城区の希望館を会場にしたトークには9日、約60人ほどの市民が参加し、活発な意見交換が行われました。

トークの中で注目されたのは新斎場建設に伴う頸北斎場の扱いです。村山市長は参加した市民から「居多に新斎場を建設したときに頸北斎場を廃止することだが、市民の暮らしや地域経済に大きな影響が出る。柿崎、大潟、吉川3区の関係住民の声をしっかり聴いて対応してほしい（大要）」と質問され、「斎場整備は重要課題だ。財源をどうするか、2つある斎場をどうするなど検討しなければならぬ。どの時点で整備するかが大きな論点だ。合併特例債を使えるのは平成36年までだ。大きな目で、中長期的にどうするか議論する必要がある。直江津に新しい斎場を造ったとしても、頸北斎場が当面使えらるれば、建物はまだ新しいし、1日平均の使用は0.9人なので施設（火葬炉）そのものもそんなに老朽化しているわけではない。そのことをうまく兼ね合わせながら使うことが必要だ」とのべました。

先月26日の市議会厚生常任委員会で市は、新斎場建設と同時に頸北斎場を廃止したいとのべていましたから、この日の市長答弁はこれを事実上修正したことになります。



【ハキダメギク】キク科の1年草。白い小さな花をつけます。漢字で「掃溜菊」と書きます。名づけの親は牧野富太郎博士ですが、ちょっとかわいそうな名称です。写真は吉川区代石にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1782 2016.11.13
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら


先日、風邪をひいた母を診療所へ連れて行くこととしたときのことでした。偶然と言えは偶然ですが、何とはなしに玄関脇に植えてある南天の木を見ておやつと思つたのです。木の根元に見たことのある白っぽい石があることに気づいたのです。

手にした途端、「なあんだ、こんなところにあつたのか」と思いました。石は、吉川区の蛸場（尾神町内会の一部）にわが家があつた三十数年前までは、玄関先にいつも置いてあつたものだったので。何十年も見ていなかったもので、それがあつたこともすっかり忘れていたのですが、それでも見ればすぐに思い出します。

石の大きさは縦横それぞれ二五センチほどの大きさです。この石には貝の化石がいつぱい入っていました。たぶん父が蛸場のどこかで拾ってきたものだと思います。

何で「蛸場のどこかで拾つたのでは」と言うかと、蛸場は化石が出るところというイメージが子どもの頃からあつたからです。私が知っているだけでも、蛸場の南側にある屏風のような山の中腹と蛸場集落の「むこう」（屋号）という家のそばにあつた小さな池の縁で化石を見たことがあります。これらの二つの場所でもなく、どこから化石が出てきても不思議はありません。蛸場はかつて海だったところが隆起して出来た場所だからです。

父が貝の化石の入つた石を大事にしている理由は、何だったのかよくはわかりませんが、単に、貝の化石がたくさん入っている石がめずらしかっただけのことかも知れません。ただ、母によると、父は「値打ちも」と見なしたものは絵であるうが石であるうが大事にしてきた人だということでした。ですから、わが家を訪ねてきた誰かに、「こりや、めずらしい。いいもの見つけましたね」などと褒めてもらつていけば、それだけで、父の評価は大きく上昇、

「わが家の宝物だ」ということになつたというのです。

一九八二（昭和五七）年の十一月のいまごろ、わが家は現在の場所に移転しました。その際、私はその石をどうしたかについてはずっと知りませんでしたし、どこへやつたのかと父に訊くこともありませんでした。

いま、こうしてわが家にあるということを確認できたということは誰かが運んできたということですか。たぶん、父が持つて来たのでしようね。

南天の木の下をよく見ると、化石を含んだ石はいま、三つになつていて、そのうちの一番大きいものはコンクリートに埋め込まれています。最初から三つになつていたのか、それとも風化が進み、石が割れて三つになつたのか、そこらへんはよくわかりません。

私の推測では、三つの石の色から見て、石は元々二つ、そのうちの一つが何らかの作用で二つに割れ、大小三つの石が南天の根元にあることになつたと見えています。

現在住んでいる家の玄関先にこれらの石が置いてあることを知つた私は、すぐに大潟区に住む弟に連絡しました。弟もびっくりするかも知れないと思つたからです。ところが弟はかなり前から気づいていたようです。そして石の出どころについては蛸場集落地内にある池の可能性が大きいのではないとも言いました。

どうあれ、貝の化石を含んだ石は三十数年ぶりに突然、私の目の前に現れたのです。思いがけない出現で私は、蛸場に住んでいたとき、化石が置いてあつた場所の周辺や「たね」と呼んでいた小さな池のことを久しぶりに思い出しました。そして、いそぎ父の姿を集めては夢中になつていた亡き父の姿を思い浮かべることができました。これが何よりもうれしかったのです。

新しい工夫や出し物も…吉川区生涯学習フェスティバル

吉川コミュニティプラザでこのほど開催された吉川区生涯学習フェスティバル、文化展を観てきました。まずは展示、1階と3階が会場です。1階の会場に入って右側にパネルがずらりと並んでいました。これ

は吉川区にある杜氏さんの9つの石碑について紹介だったので。パネルには、弓納持正成、内藤軍平など名杜氏と言われた人たちを顕彰する碑の写真と石に彫つてある碑文が載っていました。この展示は文化展の歴史はじまって以来のことです。吉川区が杜氏の郷だったことを改めて確認できました。

展示室ではこのほか、菊、盆栽、写真、絵画、絵手紙、押し花、竹細工作品などがたくさん並んでいました。押し花や絵手紙の展示会場では愛好家のグループのみなさんによる「実演」コーナーもあって、とても楽しそうでしたね。

展示してあるものの中で、これと思ったのは浦川原出身の著名なプロレタリア歌人、山田あきさんの歌碑を短歌愛好者のみなさんが訪ねた時の写真と歌です。私ももう一度訪ねてみたいになりました。

芸能発表会には30分ほどしかいることができませんでした。



それでも、オカリナ演奏、南京玉すだれ、よさこいの踊り、吟詠を観ることができました。よさこいでは、狭い会場で子どもたちが元気いっぱい踊ってくれました。玉すだれは落語や朗読、笑いヨガなどで評判の人たちの新しい挑戦です。その中心にいたMさんの軽妙なしゃべりと演技にみんな酔い知れました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月2日(水)	11月9日(水)
上越南消防署	0.040	0.043
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.043	0.057
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.047	0.057
東頸消防署	0.060	0.057
高士分遣所	0.053	0.047
名立分遣所	0.057	0.053